

尾瀬ヶ原(周回) & 温泉小屋



2023年7月21日 CL O

- 【山行地】 尾瀬ヶ原(鳩待峠～温泉小屋～鳩待峠)→南郷温泉・しゃくなげの湯
- 【山行日】 2023年6月13日(火)～14日(水) 1日目:快晴、2日目:曇天
- 【交通手段】 マイカー2台(N車、M車)
- 【費用】 1万7900円(宿泊代・温泉入浴代を含む)
- 【参加者】 9名 CL:O K、K、F、M、M、M、会員外(I、N)

【行動記録】 13日(1日目) 野木町役場6:30出発→岩舟支所6:50→道の駅くろほね→尾瀬戸倉の尾瀬観光タクシー駐車場→(タクシー)→鳩待峠10:45登山開始～山の鼻(昼食)～牛首分岐～ヨツピ橋～東電小屋～東電小屋分岐～温泉小屋14:50着(泊)

14日(2日目) 温泉小屋7:20出発～見晴(下田代十字路)弥四郎小屋(コーヒータイム)～竜宮十字路～山の鼻(昼食)～鳩待峠12:30登山終了→尾瀬観光タクシーのタクシー→同駐車場→南郷温泉・しゃくなげの湯→道の駅みかも→野木町役場17:00到着

【トイレ場所】 鳩待峠、山の鼻、東電小屋、温泉小屋、下田代十字路、竜宮十字路(有料)

【温泉小屋の湯】 温泉は赤みがかかった硫酸塩泉で、美肌効果や切り傷、動脈硬化などに効果があると言われている。(加温循環式)

【しゃくなげの湯】 温泉はアルカリ性単純温泉(アルカリ性低張性高温泉)で、神経痛、筋肉痛、関節痛、五十肩、運動麻痺、関節のこわばり、うちみ、くじき、慢性消化器病、痔疾、冷え性、病後回復期、疲労回復、健康増進などに効果が有ると言われている。

2日目の予定歩行ルート(尾瀬沼～大清水)を尾瀬ヶ原(周回)に変更した理由と結果

当初、2日目の歩行ルートは、温泉小屋～下田代十字路～白砂峠～沼尻休憩所～尾瀬沼西岸ルート～尾瀬沼休憩所(昼食)～三平峠～一ノ瀬休憩所まで歩き、その後はシャトルバス、タクシーを乗り継ぎ、尾瀬戸倉の尾瀬観光タクシー駐車場の予定だったが、①一ノ瀬⇄大清水間のシャトルバスは6月18日から運行開始、14日は運行日開始前だったこと、②1日目の木道歩き(約4時間)が思った以上に疲れたこと、③2日目の天気が思わしくないことなど総合的に判断し、2日目の尾瀬沼～大清水ルートは諦め、尾瀬ヶ原の周回ルートに変更した。その計画変更が見事に当たり、山の鼻までは降雨はなく、また、山の鼻から鳩待峠までは小雨程度(但し、鳩待峠からしゃくなげの湯まで土砂降りだったが、すでに車の中だったので助かった)で済み、梅雨の山行としては非常に幸運だった。😊

温パラ山行「尾瀬ヶ原（周回）ハイク」【感想文】

[日程] (一日目) 鳩待峠 (10:45) → 山の鼻 → ヨッピー橋 → 東電小屋 → 温泉小屋 (14:50 着)
(二日目) 温泉小屋 (7:20) → 弥四郎小屋 → 鳩待峠 (12:30)



天気予報は曇りだが尾瀬の一日目は快晴。一日目のゴール「温泉小屋」を目指しスタート。平日で天予報もいまいちにも拘わらず、ハイキング客の多さに驚いた。鳩待ち峠からの下りが終わった当たりで見頃は6月上旬のわずかに残った水芭蕉をみながら1時間程で山の鼻小屋に到着。山の鼻小屋は昭和27年2月、当時18歳の上皇様がお泊りになったこともあるようだ。「何と2月！」積雪3mだったらしい。

山の鼻ビジターセンターで昼食をとり、果てし

なく続く木道へ再スタート。

燧ヶ岳と至仏山がにらめっこしている尾瀬ヶ原を残雪の至仏山を背に前に燧ヶ岳をみながら黙々と木道を進んだ。牛も馬も食べない役立たずの水芭蕉が結構咲いていた。水芭蕉は片品村名誉村民である江間章子の「夏の思い出」(夏には咲いていないが)以来、夏のセンチメンタルジャーニーの旗印になった。「こんにちは」「こんにちは」を繰り返しながら、只見川源流のヨッピー川にかかる10人定員の「ヨッピー吊橋」に到着。「ヨッピー」とはアイヌ語で「別れ」という意味だそう。こんな所で何でアイヌ語なんだあ？毎年、登山シーズンが終わると豪雪対策の為、踏み板が取り外され、骨組みとワイヤーだけに……。ヨッピー橋を渡るとすぐ「東電小屋」。ここで一休み。

東電小屋の本館は平成3年、別館は平成4年に建て替えられきれいな小屋だった。もともとは、昭和の初め、関東水電という電力会社が、降水量調査の為に建てたもので、当時は「水電小屋」と言ったそう。その後、東京電力の前身である東京電燈が引継ぎ、「東電小屋」となった。因みに、現在、尾瀬国立公園全体の約4割の土地を東京電力が所有している。

東電小屋を出ると本日の宿泊地、別天地の温泉宿「温泉小屋」である。

10キロ四方に車道が無く、電気は燃料を空輸で運び発電機を回していて物資は月1回のヘリ空輸と週2回の歩荷だそう。温泉は入れないくらい熱かった。埋める水も出なかった(笑)。石鹸も使えない。温泉に入り、食事(カレー)を済ませ、宴会に突入。550円のビールや持参の日本酒、白、赤ワインを飲みながら、少し寒い中ワイワイガヤガヤ楽しい尾瀬の夕べであった。

(会員外 1)

